

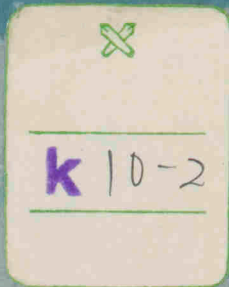
解剖訓蒙

營養器論

八

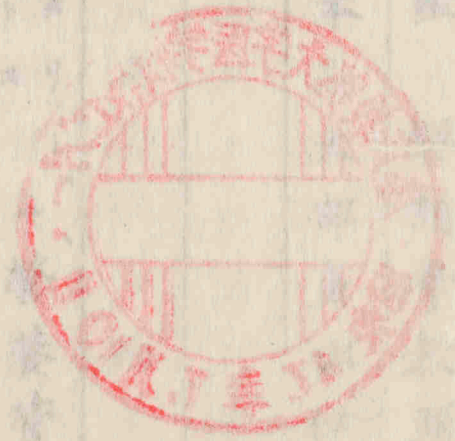
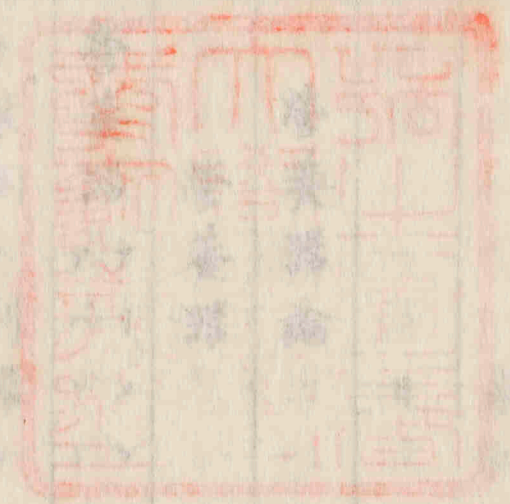


S. Kamafuji



F⁸
カ-22

Vertical text on the left side of the page, likely bleed-through from the reverse side. The characters are faint and difficult to decipher, but appear to be organized in columns.



Small red text located below the circular seal impression.

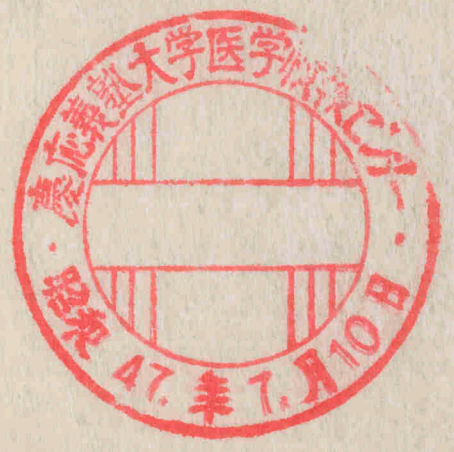
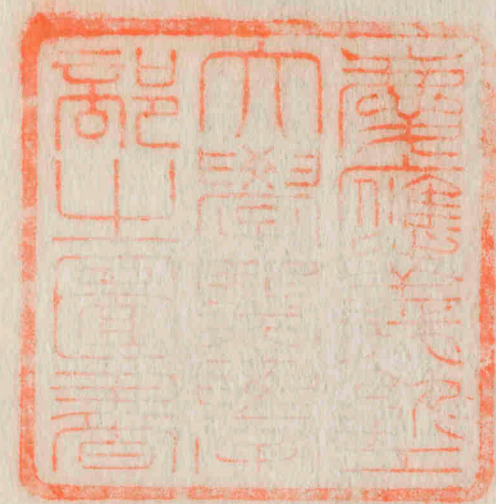
Small black text located below the red text.



491.1
Ka-3
8

No. 2394

12.11.10



富士川文庫

2454

又



又



解剖訓蒙卷之八

米利堅 解剖學教頭約瑟列第著

日本 文部省出仕村治重厚譯

營養器論

營養器

營養器

ア、パ、リ、メ、ロ、タ、リ、ハ、ス、リ、ハ、ア、リ、カ、ナ、リ、タ、リ

ト、數個ノ副器ヨリ造為ス營養管ニ二部アリ、一

ハ口ト、咽頭胃管ニテ成ル嚥下器セ、オ、ル、ガ、ノ、ス、

コトニシテ、一ハ腹内ニ在テ胃小腸大腸ニテ成

ル消化器セ、デ、シ、ス、テ、ダ、ナ、リ、副器ハ、齒頰及ヒ其

解剖訓蒙

卷之八

一

附屬諸筋ニテ成ル咀嚼器
マセ、オルケリス、オ、グ、ト、
舌、唾腺、肝ナリ、

口

口^{セ、マ}ハ、其前方ハ兩唇、後方ハ咽頭、側方ハ兩頰
ニテ包羅スル空窠ニシテ、上部ハ口蓋、下部ハ口
床ニ由テ分畧シ、其蓋床共ニ、齒牙及ヒ齒窩弓ヲ
以テ圍擁シ、且ツ床上ニハ、舌ヲ安置ス口ハ、全然
閉鎖スルキハ、其腭齒ニ由テ、自ラ兩部ニ別ル一
ハ腭ト脣頰トノ挾キ間隙ニシテ、一ハ腭内即チ
舌ヲ含メル大腔ナリ、



シ、ギ、ウ、イ、

口腔ハ、齒牙ヲ除クノ他、悉ク尿管富有ノ粘膜ヲ
以テ被覆シ、裏面ニ、鱗屑状内皮ヲ具フ、又タ齒齦
縁ノ他ハ、細微ナル、圓錐形ノ乳嘴ヲ有ス、此乳嘴
ハ、内皮下ニ潜蟄シ、但ニ舌ノ上面ニテハ、淳興シ
テ、其數モ亦多シ、實ニ味官必須ノ器械ナリ、
齒齦^{セ、ガ}ハ、所謂粘膜齒窩弓上ニ翻轉シテ成ル
者ナリ、其下底ハ、骨膜ニ容着シ、且ツ齒頸ノ周圍
ニ親接シテ、環状ノ皺襞ヲ呈ス、

脣^{セ、リ、ツ}ハ、^{ハ、}兩披裂^{セ、オ、}ニ由テ、横徑ニ分畫
シ、左右ノ兩端、乃チ^丁口角^{セ、オ、}ヲ成ス其造

乙
ラビヤ、
内
リマ、オーリス、
丁
コ、ミ、シ、ユ、ラ、ビ、オ、リ、オ、

構ハ皮膚皮下結締組織脂肪其他口披裂ニ輻輳
 シ及ヒ圍擁スルノ諸筋裏面ノ粘膜數個ノ腺相
 聚テ占居ス而テ口披裂即チ口門ノ邊縁ハ唇輪
 状筋ニテ爲リ其筋ハ薄キ皮膚ノ漸次ニ粘膜ニ
 化成スル者ニテ被覆ス爰ニ又々上下共モ唇ト
 腭ノ間ニ其中線ニ粘膜ヲ以テ皺襞ヲ成ス之ヲ
 上下層繫帶セ、シ、パ、リ、オ、ル、エ、ド、イ、ニ、リ、ト、云

フリミ、ロム、ラ、ビ、ジ、シ、
 ペリオルス、マ、ト、イ、シ、エ
 リオリス、

乙
 シ、ユ、ー、

頰セ、チ、シ、ハ其構造唇ニ異ナラス而テ主筋ハ頰
 筋是ナリ后部ニ於テ下腭枝及ヒ其諸筋ヲ保有

通常此諸筋ト頰筋ノ間ニ柔軟ナル一塊ノ脂
 肪組織ヲ含有ス

唇及ヒ頰ノ粘膜下ニ無數ノ小葡萄状腺アリ、圓

シテ淡紅ナリ管ヲ以テ口内ニ開口シ所在ニ隨

テ甲唇腺セ、レ、シ、ダ、ル頰腺セ、バ、シ、カ、ル、ト、云此腺

ハ粘液ヲ分泌スル者ト假定スレモ其官能ニ至

ラハ未タ十分ニ確知スルヲ得ス

口蓋セ、パ、レニ兩部アリ其前者ヲ硬口蓋ト云ヒ、

後者ヲ軟口蓋ト云フ以下是ナリ

硬口蓋セ、ハ、ト、ド、ハ深ク穹窿状ヲ爲シ前部ハ横

甲
 グ、ラ、ン、ダ、リ、ラ、ビ、ア、リ、ス
 シ
 グ、ラ、ン、ダ、リ、バ、カ、リ、ス、

丙
 パ、ラ、イ、ト、ハ

丁
 パ、ラ、イ、ト、ハ、テ、ロ、ス、

レーフ

乙
グランチュリパラテ
エー、
丙
パラート、ムモール、

起線ノ為ニ粗糲ナレバ、其他ハ悉ク滑澤ナル粘
 膜ニテ被包ス中央ニ幽微ナル一線^甲アリ、以テ左
 右ニ分畫ス、其線前齒管部ノ小隆起ニ至ル基礎
 ハ、上腭骨及ヒ口蓋骨ノ口盖板ヨリ構成シ、茲ニ
 粘膜アリ、纖維組織ノ緻密ナル一層ニ由テ附着
 シ、其層無數ノ小葡萄状腺ヲ含有ス、亦タ所在ニ
 隨テ、^乙口蓋腺^丙グリパングテ^丁ト云、リ、
 軟口蓋^エパレ^フト^ハ粘膜ノ重壁中ニ纖維筋層ト、
 許多ノ小葡萄状胞状ノ兩腺トヲ含メル者ヨリ
 造構シテ、硬口蓋ヨリ、斜ニ下後方ニ挺出シ、乃チ

エーダ

口ト後鼻孔ノ間ニ於テ自在ニ運動スベキ中隔
 ト為ル、
 懸壅垂^甲ガ^乙ゼ^エト^ハ軟口蓋ノ中央ヨリ挺出ヒシ、小
 キ舌様ノ者ニシテ、一對ノ筋ヨリ形成シ、粘膜ノ
 囊中ニ存セリ、
 口蓋半弓^セハ^フア^リト^チズ、^ハ二個連接セル、半
 月様ノ粘膜皺襞ニシテ、小筋束ヲ包裹シ、口蓋ノ
 側方ニ於テ懸壅垂ノ根底ヨリ、外下方ニ向ヒ、其
 連接部ヨリ相ヒ分^レテ、一ハ舌ノ側方、一ハ咽喉頭
 ノ側方ニ往ク、乃チ前對ハ口蓋舌筋ヲ包裹シテ、

アークス、パラテノス
アンテコス、
アークス、バラテノ
ス、ボステコス、
丙
フアンオム、

丁
トシラ、

借モニ前口蓋弓ヲ全成シ、後對ハ、口蓋咽頭筋ヲ
包裹シテ、借モニ後口蓋弓ヲ全成ス、
咽隘丙セ、テウハ、口ヨリ咽頭ニ至ル、挾路ニシテ、即
チ兩口蓋弓ノ間ニ在リ、

扁桃腺丁シ、ルハ、二個ノ腺様器ニシテ、其大サ及
ヒ形チ畧ホ扁桃核ニ同シ、咽隘ノ各側、即チ両口
蓋半弓間ノ三角部ニ占據ス外方ハ、咽頭上収閉
筋ニ隣接シテ、其収縮ト共ニ運動シ、咽隘方ノ面
ハ、數個ノ大孔アリテ、疎ナル網目状ヲ為シ、其孔、
各、直下ノ囊ト通シ、囊底、又チ孔アリ更ニ直下ノ

小囊ト通ス此器ハ、大ナル特異構造ノ複囊状腺
ニ他ナラス

單囊状腺乙セ、シラ、グンラブル、チリハ、其質、扁桃腺ニ同ク、

咽隘床、舌根、口蓋、咽頭ニ滿布シ、皆チ一孔ヲ具ヘ

テ、口或ハ咽頭ト通シ、粘膜ノ圓形隆起ニ由テ、之

ヲ徴知ス可シ此腺ハ、粘膜曲折延展シテ、貨囊状、

即チ短燧状ノ為ス者ニシテ、其粘膜下組織ノ厚

壁中ニ、數個ノ球状胞ヲ含有ス、此胞ノ造構ハ、膈

ノ散布腺ニ匹似ヒリ、

扁桃腺ハ、唯チ形成ノ複襍ナルヲ以テ、單囊状腺

ト相異ナリ、之ヲ審カニ言ハ、甲種ハ、即チ乙種
ノ集合スル者ニ他ナラス、此両腺共ニ、其腔内ハ、
通常粘液ヲ醗製シテ、咽隘ヲ滑利シ、以テ食餌通
過ノ便ニ供スル者ナラン、

口蓋咽隘諸筋

口蓋舉筋 ビ、イ、レ、ト、オ ハ薄平ニシテ、顛顚骨岩

状部ノ端末、及ヒ茲ニ近接セシ、エウスタキ管ノ

部ヨリ起リ、後鼻孔ノ側部ニ沿フテ下行シ、軟口

蓋ノ組織中ニ布達ス、

口蓋張筋 ビ、テ、ン、ク、オ、ウ ハ細狹ニシテ、翼状突起

甲 マスキロスリダート
ルバラテモリス、

乙 マスキロスデソル
ラテモリス、

ノ舶様窩、及ヒ茲ニ近接セン、エウスタキ管ノ部
ヨリ起リ、翼状窩ノ内側ニ沿フテ下行シ、腱ト為
リ、鉤突起ヲ繞テ、軟口蓋内ノ薄腱膜中ニ布達ス
懸壺筋 ビ、ユ、ル、ク ハ、筋肉ノ小束ニシテ、口蓋骨ノ

口蓋棘ヨリ起テ、左右相合シテ下進シ、即チ所謂

懸壺垂中ニ在セリ、

口蓋舌筋 ビ、パ、ラ、ト、グ、ロ ハ、前口蓋半弓ノ内ニ在

テ、軟口蓋ノ側部ヨリ、舌ニ達ス、

口床 ビ、ス、ル、ア、オ、ハ 即チ下腭ヲ以テ圍擁シ、皮膚、

腭舌骨筋、腮舌骨筋ト、齒齦ヨリ舌ノ下部ニ翻轉

甲 マスキロスアゼ、コスキ
ダリ、

乙 マスキロス、パト、グロ
リス、

ヒシ粘膜トヨリ形成ス、

唾腺

唾腺ハ、三對アリ皆ナ口腔内ニ関口ス、其各對ヲ、

耳腺、下脛腺、舌下腺ト云フ、

^甲耳腺 セ、パ、ロ、ウ、ト、ハ、三對中、最大ノ者ニシテ、外耳

ノ前部ヲ領シ、稍ヤ咬筋ヲ蔽ヒ、上方ハ、衡骨ニ至

リ、下方ハ下脛角ニ至リ、而テ内方ハ、下脛枝ト、乳

頭突起ノ間ニ挿入シテ、錐穎突起、及ヒ其筋ニ達

ス、茲ニ顔面神經、外頸動脈、及ヒ其同行靜脈アリ、

甲ハ、横徑ニ穿過シテ分岐シ、ヒト丙ハ、縦徑ニ穿

グラシス、パ、ロ、ウ、ト、ハ、

過セリ、大ナル複葡萄状腺ニシテ、周圍ノ隣接面

耳腺ハ、大ナル複葡萄状腺ニシテ、周圍ノ隣接面

ニ正シク型函ス、其式、無數ノ多角葉ヨリ構成シ

各葉再分シテ、又々小葉ト為リ、總テ緻密ノ蜂巢

組織ヲ以テ結締、其蜂巢組織、外方ニ於テハ、腺

ヲ被包シ、且ツ近傍部ニ附着スル他ノ蜂巢組織

ニ連接ス、

^甲耳腺管 セ、パ、ロ、ウ、ト、ハ、其大ケニ、イソチ其大サ烏

翅幹ニシテ、耳腺ヨリ、前方ニ往キ、衡骨ノ稍ヤ下

部ニ於テ、咬筋ヲ横過シ、頰筋ヲ穿通シ、終ニ口内

ドクトス、ステノニアノス

甲
グランドラジニア、
テデス

乙
グランドラ、サブマキ
ラリス、

ニ関口ス其口稍ヤ縮小シテ上腭ノ第二大臼齒ノ部位ニ對向スル小隆起上ニ存セリ、
通常耳腺ノ離居部アリ副耳腺甲ハ、ア、ク、セ、ソ、リ、
ト云フ咬筋上ニ留着シ其管ヲ以ツテ宗管ニ通
ス、
下腭腺乙ハ、耳腺ノ畧ホ三分一ニシテ、
テ之ト相分界スルニ、深在頸筋莖ノ強キ展延部
ヲ以テシ、下腭底ノ内下ニ占據ス而テ腭舌骨筋
ノ下ニ於テ下方ハ、二腹筋ノ曲線ニテ圍擁シ外
部ハ、頸皮筋及皮膚ニテ被包ス其造構耳腺ニ異

甲
ドクトス、ボルトニアノ
ス、

乙
グランドラ、サブマキ
ラリス、

解剖学

卷之八

八

ナラス、唯此スレハ各葉粗糙ニシテ結締組織ノ
量甚々寡シ故ニ近傍部ト附着スルモ亦タ弱シ
トス、

下腭腺管甲ハ、其丈ケ畧ホ二、イン、チ、ア、
ラ、レ、ド、マ、キ、セ、ハ、

リ、後方ニ往キ、腭舌骨筋ノ後縁ヲ廻テ此筋ト舌
骨舌筋ノ間ヲ前方ニ進ニ、舌繫帶ノ側方ニ至リ、
小乳頭ノ尖頂ニ終ル、

下腭腺モ亦タ離居部アリ其腺管ニ少ラク從行
シテ、卒ニ茲ニ交通ス、

舌下腺乙ハ、三對中最小ノ者ニシテ、
バ、ゲ、ル、ダ、ラ、ン、ド、ハ、

其形狀狹フシテ長ク、口床ニ占據シ、口腔内ニ隆起シテ、舌側ノ下部ニ分明ナル起線ヲ呈ス。此腺ハ、舌繫帶ノ部位ヨリ、下腭腺ニ達シ、其管ト隣接ス。

甲 ドクトス、リガイニ

舌下腺ノ構造ハ、他ノ二對ト同一ナレド、其小葉ノ連接ハ、稍ヤ寬縱ナリ、而テ凡ソ六箇許ノ小管ヲ以テ、口腔ト交通シ、即チ所謂起線上ニ開口ス。屢其數管會合シテ、一管ト爲リ、以テ下腭腺管ト近接、或ハ會合シテ終ルコトアリ。

乙 スピロトム

唾腺ノ分泌液ヲ津唾セ、サト云フ、其質無色ニシ

テ、稍ヤアルカリノ反應ヲ具ヘ、粘液ノ混合ニ由テ、多少粘稠ト爲リ、且ツ些少ノ内皮片ト、所謂粘液球、即チ遊離核トヲ含ム。

唾腺ノ動脈ハ、耳腺ハ、外頸動脈、下腭腺ハ、顔面動脈、舌下腺ハ、舌下動脈ヨリ受ク、其靜脈ハ、此諸動脈ト并行ノ靜脈ニ終リ、其神經ハ、近傍ノ脈管交感神經叢ヨリ來リ、且ツ三枝神經ヲ纖維ト連合

ス、

舌

舌、筋ヨリ形成シ、粘膜ニ被包シタル一

甲 リング

フリニエラエピグロ
テデス、

器ニシテ、休息スルハ、下腭弓内ヲ領ス其運動
 尤モ自在ナルヲ以テ、咀嚼、嚥下、機能及ヒ言語
 ノ發音ヲ補助シ、又々面上ニ所謂乳嘴ノ存スル
 ヲ以テ、味官ト爲ル其後部、舌骨ニ附着スル所ヲ
 根ド、ル、又々本ス、ト云ヒ、其中央部、口床ニ附着
 スル所ヲ、体イ、ボ、ト云フ、而其尖イ、側マ、及ヒ
 上面ア、ノ三部ハ、遊離シテ、粘膜ヲ全被シ、其
 粘膜ハ、舌下部ヨリ、下齒齦ニ翻轉セリ、
 舌根ト、會厭軟骨ノ際ニ、粘膜ヲ以テ、三個ハ皺襞
 ヲ形成ス、之ヲ舌會厭繫帶イ、ト云フ、

フリニエラ、リンク
ウア、

下ルナム

舌尖、下部ヨリ、齒齦ニ達スル中線ノ皺襞ア
 リ、之ヲ舌繫帶イ、ト云フ、
 舌ノ下部ノ粘膜ハ、薄且ツ明徹ニシテ、血管ヲ透
 見ス可シ、特ニ其蝦蟇靜脈ト、數個ノ葡萄状腺ハ、
 愈々瞭然タリ、尖部下ニ於テハ、稍ヤ隆起シタル中
 線イ、即チ縫際イ、ヲ形成シ、舌繫帶ト連
 續ス、

上面イ、即チ舌背イ、ハ、中線ニ於テ、
 幽微、一溝アリ、其位置宛モ舌ヲ真半ニ分界ス
 ル、薄纖維中隔ト一致ス、

甲
パピリ、ガスター、リ

其粘膜ハ、舌ノ上面ノ三分二、前方ニ在テハ、下層
ノ筋組織ト、至密ニ附着シ、特ニ小突起即チ所謂乳嘴ナリ
ヲ密布スルヲ以テ、其部分、愈判然タリ、小突起ハ、
其官能ヲ以テ、甲司味乳嘴セ、パピリ、オト稱ス、就中、
著大ナル者、三種アリ、之ヲ環隄状、頭状、圓錐状ト
云フ、以下是ナリ、

乙
パピリ、ガスター、ム、ヴァ、テ
イ、

環隄状乳嘴セ、サア、コ、ム、ヴァ、レハ、三種中、最大ノ者ニ
シテ、其數、凡ソ十二許アリ、順列シテ、V字状ヲ呈
シ、即チ舌ノ三分一、後部ニ於テ、乳頭層ヲ限畫ス
此乳嘴ハ、倒立ノ圓錐形ニシテ、周圍ニ環壁状ノ

甲
パピリ、カピター、イ

隆起アリ、是レ其名ノ起ル所以ナリ、
頭状乳嘴ト、カ、ピ、リハ、前者ニ比スレハ、小ニシ
テ多ク、舌面ニ散布シテ、分明ニ赤キ小突起ノ呈
シ、特ニ舌尖及ヒ其近傍ニ於テ多在ス、而テ其游
離端ハ、圓形ニシテ、基礎ハ、比スレハ、狹細ナリ、亦
以テ名ケリ、

乙
パピリ、ゴニ、シ、

圓錐状乳嘴レ、コ、ニ、カ、ハ就中、細小ニシテ、其數最
モ多ク、他ノ乳嘴間隙ニ集簇ス、然レモ、舌ノ中線
ヨリ、分岐シテ、自ラ整然ト左右ニ羅列セリ、斯ク
論スル所ノ司味乳嘴及ヒ其間隙ハ、都テ無數ノ

丙
パピリ、リリス、オーム

角言言家 卷之八

微細ナル圓錐形ノ單乳嘴ル、ハ、シ、ン、プヲ以テ被覆セリ、而テ其圓錐狀乳嘴上ニ存スル者ヨリ、鱗屑狀内被ノ毛様物數多植立シテ、恰モ筆頭ノ如ク、以テ圓錐狀乳嘴ヲシテ、飲液ヲ吸収シ易カラシム。舌面ノ恒ニ剪絨狀ヲ呈スルモ、或ハ所謂舌苔ヲ生スルモ、皆ナ此毛様物ノ突起シテ存スルニ由レリ、司味乳嘴ハ、畢竟、舌粘膜ノ突起ニシテ、血管ヲ富有ス、茲ニ終ル所ノ神經ノ法方ハ、未タ全ク確定スベカラス、然レモ、一般ニ和稱スルニハ、輪繩狀

甲
グランド、リ、リ、グ、ウ、
リス

ヲ爲シテ、單乳嘴中ニ終ルトス。毛細管ハ、輪繩狀ヲ爲シテ、内位ニ存在シ、底部ノ脉幹ト通スルヲ瞭然タリ、環隄狀乳嘴ノ後口、即チ咽隘床ニ於テ、舌上ニ無數ノ腺ヲ具フ、之ヲ甲舌腺乙、ル、ハ、シ、ン、プ、グ、ラ、ン、グ、ウ、ト云フ、其種二個アリ、一ハ、葡萄狀腺ニシテ、恐クハ、粘液ヲ分泌スル者ナラン、一ハ、胞狀腺ニシテ、扁桃腺ノ如キ、特異ノ造構ヲ具フル者アリ、或ハ口蓋咽頭ノ腺ト同一ナル者アリ、通常ハ、一簇ノ舌腺アリ、彼ノV字畫ノ中點ニ在ル者ノ直后ノ小囊中ニ開

解剖学 卷之八 十二

口ス其他既ニ論セシ如ク舌下ニ數個ノ葡萄状腺アリ又々之ト同種ノ腺アリテ舌側ノ筋質中ニ蔵居ス

舌諸筋

舌諸筋ハ舌ノ多部ヲ造成シ多クハ被包スル粘膜ノ纖維層ニ歸着ス筋ノ纖維層ニ近ツクヤ其小束ト緯筋纖維經筋纖維及直筋纖維ノ許多ノ束ト會合シテ錯綜織成ス此纖維ニ混着セシ若干量ノ脂肪組織アリテ稍ヤ尋常結締織ノ作用ヲ為スニ似タリ

甲 マスキュリ、ダラン、ス、ウアル
乙 リス
丙 マスキュリ、ンチ、キ、エ、ト、デ、ナ
マスキュリ、ウ、ル、テ、カ、リ、リ
ス、

丁 マスキュロ、ス、バ、イ、オ、ク、ロ、サ、

甲 マスキュロ、ス、ジ、エ、ニ、オ、ク、ロ、サ、

乙 マスキュロ、ス、ロ、ン、グ、ウ、ア、

舌骨舌筋 セ、ハ、イ、オ、グ、ロ、ハ、 方平ノ纖維ニシテ舌骨ノ大角及ヒ体ヨリ起リ上行シテ舌ノ側方ニ

達シ、錐穎舌筋ト舌筋ノ間ニ滿布ス

腮舌筋 セ、ジ、エ、ニ、オ、ク、ロ、ハ、 厚キ扇状ノ纖維層ニシテ

テ、睫ヲ以テ、後腮隆起ヨリ起リ、放射線状ヲ爲シテ、後上方ニ向ヒ、舌ノ尖端ヨリ根ニ至ル間ニ附着

シ、纖維組織ノ薄キ中隔ニ由テ、他ノ同名筋ト分

異ス、
舌筋 セ、リ、ン、グ、ウ、ア、ハ、 小束ニシテ、細狭ノ纖維ナリ

前前筋及ヒ前筋着点ノ間ニ位シ、舌骨ヨリ舌尖

丙
マスキロステア
クロサス

二 達ス、
 錐頰舌筋 ゼ、ステイログロ ハ、顛顛骨錐頰突起ノ
 末端及ヒ錐頰腭靱帯ヨリ起リ、下行シテ舌側ニ
 達シ、舌骨舌筋ノ外方ニ滿布ス、
 腮舌筋ハ、開口ノキニ、舌ヲ挺出セシメ、舌骨舌筋
 反ヒ舌筋ハ復位セシム、而テ腮舌筋前部ノ収縮
 ハ、舌尖ヲ掣下シ、錐頰舌筋ハ、舌側ヲ上後方ニ牽
 引ス、
 舌ノ動脈ハ、外頭動脈ノ舌支ヨリ來リ、其最著ノ
 静脈ハ、蝦蟇静脈ニシテ、通常、頭側ニ於テ、顔面静

ア
ソ
テ
ス

脈ト連合ス其神經ハ、下腭神經ノ舌支、舌咽神經
 ノ舌支及ヒ舌下神經ナリ、而テ下腭舌咽ノ二個
 ハ、粘膜及ヒ司味乳嘴ニ入り、舌下ノ一個ハ、筋組
 織ニ分布ス、

齒牙

齒牙 イ、ゼ、テ ハ、切實ニ食物ノ品性ト、動物ノ固習ト

ニ関涉スルヲ以テ、動物學ニ於テ、其種類ヲ區別

スル、微候中ノ最モ須要ナル者ナリ、成分ハ、三様

ノ異質ヨリ出ツ、曰ク牙皮 ゼ、メ 牙質 テ、シ 珽瑯質

ニナリ、而テ甲ハ、骨質ニ類似シ、乙ハ、齒牙ノ

象牙質ヲ造成シテ其堅硬甲者ニ優リ丙ハ管ニ
 齒牙質中ノ最硬ナルノミナラス諸動物質中ノ
 最堅硬ナル者ナリ牛馬及ヒ象ノ如キ蔬食族ノ
 臼齒ハ件ノ三層互ニ交錯シテ一ノ重疊層ヲ成
 ス故ニ其磨耗スルニ隨ヒ臼面恒ニ不齊ニシテ
 能ク粉塵ノ用ヲ爲ス犬猫家猪ノ如キ肉食族及
 ヒ俱食族ノ齒牙ハ彼ノ牙質ヲ以テ其体ヲ構成
 シ珧瑯質ヲ以テ其帽即チ露出部ヲ被覆シ薄キ
 牙皮ヲ以テ其根ヲ包裹ス
 齒牙ハ實ニ營養管粘膜ヨリ發育セシ附屬物ニ

シテ位置ヲ固定スルニ骨骸ノ一部ヲ以テス鳥
 及ヒ龜類ハ兩脛ニ角質ノ者即チ嘴アリテ齒牙
 ニ代ル猶ホ人ノ爪髮ニ於ケルニ同ク畢竟皮膚
 ノ附屬物ナリ家鷄ノ如キ蔬食禽ニ於テハ食物
 ト共ニ嚥下セシ沙石恰モ齒牙ノ用ヲ爲ス蓋シ
 其胃ヤ甚タ強剛ナル筋纖維ヨリ成リ内面ニ厚
 キ外皮様ノ皮ヲ具フルヲ以テ彼ノ沙石ノ補助
 乃チ硬物ヲ粉塵ス

人其生間ニ兩種ノ齒牙ヲ具フ他ノ總テノ哺乳
 動物モ大抵亦タ然リ其一種ハ不久齒

テ、レ、テ、
 一、レ、テ、

甲
コロナ
乙
コアガイクス
丙
ラーデクス

パイ即チ乳齒
チイメルクニシテ、其一種ハ持久齒
マ子ズト、ナリ匍行蟲及ヒ魚類ハ、齒牙ノ種類甚
タ多ク、而テ生間、恒ニ彼此更換ス、

齒牙ニ四種アリ、コレヲ前齒ソインサイ犬齒イケン

ス小齧齒ラプリモ又タ双点齒スバシカ大齧齒イモ

ラト云フ、各帽セ、クロ又タ体セ、ボト頭セ、子ト根セ、

ト有ス其帽又タ体ト云フハ、挺出セシ部

ナリ頭ト云フハ、齒齧ニテ圍擁シ、稍々縮小セシ

部ナリ根ト云フハ、腭骨ノ齒窩内ニ、植入セシ部

ナリ四種トモニ帽ノ形状ハ、各異ナリ、根ハ、各末

端ニイタルニ随フテ尖リ、而シテ腭骨ノ骨膜及

ヒ齒齧ノ粘膜下組織ニ連ナル纖維組織ヲモツ

テ、齒窩内ノ側部ニ固着ス、此組織ハ、頭部ニ於テ、

稍々齧積シ、モツテ齒牙鞅帶セ、ガデヲ造成

セリ、

齒牙ノ内部ニ、小洞アリ、軟塊腔セ、ケト云フ、

其形状、外部ノ総容ニ異ナラス、其所有物、即チ軟

塊セ、ルハ、血管ニ富ミ、且ツ非常ニ敏覺ナル組織

ナリ、其血管及ヒ神經ハ、根ノ末端ニ開口スル、狭

管ヨリ穿入シテ蔓布ス、

ガガイクスボルビー
アラステマ、デンテス

腭 = 齒牙ヲ並植スルニ、上下共モ、全弓ヲ形成シ
 テ、缺亡スルコト無シ、是レ下等動物ニ於テハ、稀ニ
 見ル所ナリ上弓ハ、下弓ヨリモ、大ナルヲ以テ、稍
 ヤ前方へ超越ス、斯ク齧齧スル所以ハ、下齒ハ、前
 者直立シ、次者稍ヤ内方ニ傾斜スルニ、上齒ハ、前
 者前方ニ傾斜スレバナリ兩腭閉鎖スルキハ、上
 前齒ハ、下前齒ヲ覆ヒ、次ノ上齒ハ、下齒ト交錯シ、
 大齧ノ磨理面ハ、上下宛モ触接ス、
 持久齒性質
 持久齒ト、テ、イ、マ、子、レ、ハ、總計三十二、即チ兩腭共ニ、

甲
 テレテス、バ、ル、マ、子、レ、テ、
 ス、

ア、ン、テ、ス、イ、ン、サ、イ、
 シ、ー、ダ、ン、

其各側ニ八枚アリ、蓋シ齧齒二枚、犬齒一枚、小齧
 齒二枚、大齧齒三枚、次第ニ并列セリ、然レ其數
 時トシテ、増減ス、若シ過常ノ者アレハ、細小ニシ
 テ、唯タ一根ヲ具フルコト
 齧齒 イ、ソ、ル、ス、ハ、 即チ每腭四枚ノ前齒 ト、テ、イ、ロ、ン、
 ニシテ、此名アルハ、食物ヲ嚼齧スレハナリ其帽
 ハ楔状、即チ鑿状ニシテ、前方ハ圓凸シ、後方ハ槎
 截シ、側方ハ三角タリ、其齧致縁ハ、始メ狹ク、且ツ
 三箇ノ結節ヲ具フレ、之ヲ用ルニ隨テ、結節磨
 減シ、且漸次ニ廣濶ト為ル根ハ、長ク圓錐形ニシ

高シテ大ナリ其根ハ圓錐形ニシテ甚々扁平シ、
兩側ニ深溝ヲ具ヘ、亦々分裂ノ素質ヲ呈セリ、
上小齧齒ハ下者ニ比スレハ巨大ナリ、其根通常、
多少分裂シテ、二箇ト為ル、殊ニ第二者ニ於テ、時
時然リ、

アンテスモラーレ
ス、

大齧齒^甲ラゼ、モ一ハ、俗ニ又々「脰齒」^{テジイオス}ト称ス、亦
々骰子形ノ大帽ヲ具ヘ、其縁及ヒ側面共ニ短圓
ナリ、然レモ通常、側方ハ凸出最モ少ク、或ハ且ツ
扁平ナルコトアリ上者ノ磨理面ハ斜方取ニシテ、
突起縁ヲ具ヘ、其縁四隅ニ結節ヲ為ス、下者ノ磨

理面ハ殆ト長方形ニシテ、亦々突起縁ヲ具ヘ、其
縁五個ノ結節ヲ為ス、
其根下者ハ左右相對セシ、圓錐狀ニテ、側方甚々
壓平シ、且ツ深溝アリ上者ハ三個ノ圓錐狀ニテ、
二個ハ外方、一個ハ内方ニ在リ、而テ内方ノ者ハ、
巨大ニシテ溝ヲ具ヘ、亦々窪モ分裂々可キ素質
アルニ似タリ、

大齧齒ハ其列次ニ隨テ稍ヤ减小シ、而テ下齧齒
ハ上齧齒ヨリ巨大ナリ、第三齧齒ハ發育就中晚
キヲ以テ、之ヲ「慧齒」^{ゼ、ウ、ス、ド}ト云フ、慧齒ハ其形

起内板、翼状腭韌帶、下腭ノ齶齒線ノ後部、舌根、舌骨、及ヒ喉頭ニ附着ス件ノ諸部ニ聯接スルハ、蜂窩組織ニ由レリ、
壁ハ、筋膜ヨリ成レリ外層ハ、即チ薄キ纖維膜ニシテ、頭底ニ附着スル部ニテハ、其質特ニ強靱且ツ、腱膜様ナリ、次層ハ、適宜ニ厚キ筋層ニシテ、其筋五對ナリ、之ヲ次章ニ揭示ス、
裏面ノ粘膜ハ、赤色柔軟ニシテ、強キ粘膜下組織ヲ以テ、筋層ニ聯接シ、其組織中ニ、饒多ノ腺ヲ含ム、其上部、鼻孔ノ床部ニ届ルマデハ、面上ニ圓柱

状ノ頭毛内皮ヲ具フレル、下部ニ於テハ、口ノ粘膜ニ匹似シ、即チ鱗屑状内皮ヲ具、テ、微細ノ乳嘴ヲ含填ス、
咽頭腺セ、フア、ラ、ン、ジ、エハ、葡萄状、囊状ノ兩種ニシテ、囊状ニ、又タ單複ノ兩種アリ、乃チ扁桃腺ノ特異造構ヲ具スル者ト、口蓋舌ノ囊状腺ノ造構ヲ具スル者はナリ、
血管ハ、咽頭動脈、下口蓋動脈、甲狀動脈ヨリ來リ、神經ハ、舌咽神經、肺胃神經、交感神經ヨリ來レリ、
咽頭諸筋

マスキロス、ハラト
ア、リ、ン、ギ、オ、ス、

マスキロス、ステイ
ロ、ア、リ、ン、ギ、オ、ス

マスキロス、コンス
トリクタ、ア、リ、ン、
ギ、オ、ス、シ、バ、リ、オ、ル

口蓋咽頭筋^{セ、ハラト}ハ、軟口蓋ニ始リ、口蓋ノ後半弓内ヲ下リ、次筋ト會合シテ、咽頭ノ側部及ヒ甲状軟骨ノ上部ニ附着ス、

錐頰咽頭筋^{セ、スタイロ}ハ、顛顛骨ノ錐頰突起ノ根ノ近傍ヨリ起リ、次ノ兩筋ノ間ニ下行シテ、粘膜上ニ擴布シ、一半ハ甲状軟骨ノ上部ニ附着ス、

咽頭上収閉筋^{セ、シ、バ、リ、オ、ル、コ、ン、ス、ト、リ、ク}ハ、薄ク四角形ニシテ、翼状突起内板ノ下半部ト翼状腭韌帶トヨリ起リ、後方ニ進シテ、他ノ同名筋ト

マスキロス、コンス
トリクタ、ア、リ、ン、ギ、オ、ス、

マスキロス、コンス
トリクタ、ア、リ、ン、ギ、オ、ス、
イ、ン、シ、バ、リ、オ、ル

接合シ、而テ延展シテ、枕骨ノ基礎突起ニ附着ス

咽頭中収閉筋^{セ、ミ、ド、ル、コ、ン、ス、ト、リ、ク}ハ、扇状ニシテ、舌骨ノ大小兩角ヨリ起リ、放射状ヲ爲シテ、咽頭ノ後中線ニ至リ、亦タ他ノ同名筋ト接合ス

其上纖維ハ、次筋ニテ覆ハレ、中纖維ハ、殆ト横行シ、上纖維ハ前筋ヲ掩フ、

咽頭下収閉筋^{セ、イ、ン、シ、バ、リ、オ、ル、コ、ン、ス、ト、リ、ク}ハ、氣管ノ上部ニ在ル、一箇或ハ二箇ノ環ト、環状軟骨ノ側部ト、甲状軟骨ノ斜線ヨリ起リ、後方ニ彎曲且ツ擴布シテ、亦タ咽頭ノ後中線ニ至リ、他ノ同

名筋ト接合ス其下纖維ハ横行シテ胃管ノ起端
ヲ圍擁シ上纖維ハ漸次ニ傾斜シテ上リ前筋ノ
下部ヲ掩フ
軟口蓋咽隘咽頭ノ諸筋ハ舌ノ諸筋舌骨喉頭ノ
兩舉筋ト俱ヒニ嚥下ノ作用ニ関與ス
腮舌骨筋ハ舌ヲ前上方ニ拏キ以テ食物ヲ先ツ
硬口蓋ニ逼壓シ次ニ咽隘ニ逼壓セシム然ルル
ハ錐頰舌筋収縮シテ咽隘ノ口ヲ狹窄シ且ツ舌
ヲ後上方ニ拏キ軟口蓋ハ其舉張兩筋ノ作用ニ
由テ上後方ニ拏カレ緊張シ同時ニ口蓋咽頭筋

収縮シテ口蓋ノ後半弓互ニ接近シ其細小ノ間
隙ヲ懸壅垂ニテ閉鎖シ以テ咽頭ト鼻腔トノ交
通全ク遏止ス咽頭及ヒ喉頭ハ錐頰舌錐頰舌骨
ニ腹腮舌骨腭舌骨ノ五筋ニテ舉上シ此機ニ由
テ咽頭腔ハ廣濶ト為リ喉頭腔ハ會厭軟骨ニ向
テ逼壓サレ全ク閉塞ス而テ咽頭内ノ食物ハ咽
頭収閉筋ノ作用ニ由テ下方ニ降進シテ胃管ニ
入レハ以上ノ諸部悉ク其常位ニ復ス

胃管

胃管^シニ^シテ咽頭ヨリ下行

クニキロスマイン
クニキリ

シ
シ
シ

其經過稍ヤ弯曲シテ、頭及ヒ後縱膈腔ヲ過キ、
 胃ト交通ス乃チ第五ノ頸椎及ヒ喉頭、環狀軟
 骨ノ位線ニ始リ、脊椎柱ニ親接シテ下進シ、第九
 ノ背椎ニ對シテ、横膈ノ胃管孔ヲ穿通スルナリ
 而テ頸部ニテハ、前方ニ氣管、各側ニ普通頸動脈
 アリ、胸部ニテハ、前方ニ心囊、左側ニ下行大動脈、
 右側ニ不對靜脈アリ、
 胃管ハ其丈々畧ホ九^一イ^一チ幅ハ一^一イ^一チニ過
 キス、休息スルキハ、前後ニ扁平ナレヒ、擴張スル
 キハ圓柱形ヲ呈ス起端ニテハ、最ヒ狹小ナレヒ、

胃管ノ起端ニテハ、最ヒ狹小ナレヒ、

下行スルニ隨ヒ、漸次ニ廣濶ト為リ、横膈ヲ穿通
 中ハ、稍ヤ縮小シ、出ルヤ、速ニ擴張シテ、乃チ胃ト
 為ル外部ニ、薄キ纖維膜ヲ具フ、此膜ハ、胃管ノ神
 經叢ヲ圍擁シ、且ツ近傍ノ諸部ニ連接ス其底下
 筋層^甲アリ、此層ハ、二層ヨリ織成シ、厚サ畧ホ一
 ライ^一ノ四分三ナリ、其外層ハ、經纖維ニシテ、三
 箇ノ小筋束ヲ以テ、環狀軟骨ト、咽頭下収閉筋ヨ
 リ起リ、胃管ヲ齊整ニ周匝シテ、胃ニ至ル内層ハ、
 緯纖維、即チ環狀纖維ニシテ、比スレハ薄ク、上
 咽頭下収閉筋ニ連接シ、下ハ胃ニ普達ス、

シアラリス、
シアラリス、
シアラリス、

筋層ハ上部ニテハ、悉ク横紋纖維ヨリ成レ、下
行スルニ隨ヒ、漸次ニ無紋纖維ヲ混シ、終ニ彼此
、纖維、其多寡ヲ更換スルニ至ル、
裏面ノ粘膜ハ、咽喉及ヒ、口ノ粘膜ニ比スレハ、其
色甚々灰白ナリ、然レモ造構ニ至テハ、異ナル
ナシ、亦々微細ノ乳嘴ヲ具ヘ、鱗屑状内皮ニテ全
蔽ス、此粘膜ハ、胃管休息ノキハ、幽微ナル縫裂
レモ、擴張スルキハ、喪亡ス、底下ニ、適宜ニ厚キ、一
層ノ粘膜下組織アリ、以テ粘膜ト、筋層トヲ联接
シ、其質中ニ、小葡萄腺、散布セリ、之ヲ胃管腺
トイフ、

シアラリス、
シアラリス、
シアラリス、

クレンジアルト云フ、蓋シ其部位ニ由テ目スルハ、
血管ハ、下甲状腺ト、胃管動脈ヨリ來リ、神經ハ、
肺胃神經ト、交感神經トヨリ來レリ、

腹腔

腹腔 セ、ケ、ガイ、テイ、イ、オ、グ、ハ、 体中最廣ノ空竅ニシテ、
營養器、及ヒ泌尿、生殖兩器ノ多部ニテ、充填シ、其

裏面ハ、清膜 清膜ハ和蘭ニ 延展シテ、之ヲ被覆ス、
是所謂腹膜 セ、ペ、オ、ハ、ト 也、此膜ハ、許多ノ臟腑ヲ被

覆シテ、相関渉スルヲ以テ、其位順、頗ル繁雜也、
腹腔内ハ、全ク臟腑ニテ、充填シ、寸隙ヲ遺カス、其

解 胃管腺 セ、イ、
廿五

臟腑ハ、腹肚諸筋ノ運動ニ隨從シ、而テ一器ノ縮張タモ、其隣接セル他器ノ運轉ニ憑依セザル可ラス、

腹肚ノ廣大ナルト、其腔内諸器ノ位置ヲ論スルニ、須要ナルトヲ以テ、假リ一腹壁上ニ、井字線ヲ畫シ、以テ方位ヲ區別ス、其式先ツ体ヲ周テ、二條ノ緯線ヲ畫ス、乃チ一ハ胸腔ノ下線ニ於テシ、一ハ膈骨ノ膈骨嶠ニ於テス、此ニ由テ、腹肚別レテ、三區ト爲ル、次ニ膈骨ノ前下棘状突起ヨリ、各方共ニ一條ノ經線ヲ畫スレハ、向キノ每區、復タ別

甲 レジヲ、ビビカストリカ
 乙 レジヲ、オムベリカリス
 丙 レジヲ、ハイポカストリカ
 丁 ヒポコンドリカ
 戊 リジオーナス、ロムパリス
 己 リジオーナス、イリアス
 庚 スーマコス

レテ三區ト爲リ、總計九位ヲ得ヘシ、

中央ノ上位ヲ **上腹部** セ、ビビガスト 次位ヲ **膈部** セ、ハイポガスト

部 セ、オムベリカ 下位ヲ **下腹部** セ、ハイポガスト

ト爲シ、各側ノ上位ヲ **左右肋下部** セ、ライト、ヒポ

ク、リ、ド、リ、ア、ク、リ、ド、リ、ア、 次位ヲ **腰腕部** セ、ロムパル、下位ヲ **膈** セ、ロムパル

骨部 セ、イリカ、ト爲ス、此九位ヲ占領セル諸器

ヲ左ニ揭示ス、

胃 セ、マク、ハ、左肋下部ト、上腹部トヲ占領シ、右肋下部ノ小部ヲ兼領ス、而テ其擴張スルルニ、小腸空虚ナレハ、膈部ヲ奪領スルニ至ル、

小腸、セ、ス、モ、タ、イ、ル、イ、ハ、臍部及ヒ周圍ニ隣接セ
ル、諸部ノ縁ヲ占領シ、其式迂曲廻轉シテ、一塊ト
爲リ、而テ尻骨盤内ノ臟腑空虚ナルキハ、己レノ
一部降テ其虚内ニ入レリ、

大腸、セ、ラ、イ、ガ、イ、ン、ハ、右腸骨部ニ起リ、同側ノ腰

臑部ヲ經テ、右助下部ニ上行シ、次ニ上腹部ト臍

部ノ間境ヲ横過シテ、左助下部ニ至リ、其次位

ニ終レリ、

肝、セ、レ、ハ、右助下部ヲ占領シ、上腹部ヲ横過シテ、

左助下部ニ及フ、

脾、セ、ス、ピ、ハ、左助下部ノ深部ヲ占領ス、

膵、セ、パ、ン、ハ、一方ノ助下部ヨリ、上腹部ノ深部

ヲ横過シテ、他方ノ助下部ニ及フ、

腎、セ、キ、ド、ハ、腰臑部ノ深部ヲ占領ス、

膀胱、セ、ユ、リ、ナ、レ、ハ、尻骨盤内ニ占居スレモ、擴張

スルキハ、下腹部ニ昇達ス、

腹膜

腹膜、セ、ベ、オ、リ、ト、ハ、清膜中ノ最モ廣大ナル者ニシ

テ、腹壁ノ裏面ヲ被包シ、廻轉シテ、臟腑ニ達シ、全

メンブラナ、アブド
ミニス、

乙 甲
ペリトニオム、ウ
セラール、
ペリトニオム、ウ
リタール、

然閉鎖ノ囊ニシテ他ノ清膜ニ異ナラス、但婦
 人ニ在テハ、喇叭管ノミ、腹膜腔ト交通セリ、臟腑
 ハ、腹膜腔内ニ藏居スルニ非ス、宛モ腹ノ後部ヨ
 リ、前部ニ挺出シ、腹膜ノ己レニ内翻スルニ由テ、
 圍包セラール、故ニ腹膜ノ位頓甚々繁雜ナルハ件
 ノ内翻部ノ負數甚々多キニ坐スレハナリ、
 腹膜ノ臟腑ヲ覆フ部ヲ、腹膜内臟層 ゼ、ウイセラール、
ペリトニオム、
 ヲト云ヒ、腹壁ヲ覆フ部ヲ、腹膜腹壁層 ゼ、バラ、
タル、
 オム、ト云フ、其兩部互ニ親接スレハ、對向ノ面
 ハ、滑澤ニシテ光輝アリ、且ツ常ニ清液 清液ハ取
液也

ヲ以テ、自ラ浸清スルカ故ニ、諸器械ヲシテ、滑利
 ニシ、相互ニ運動シ易カラシム、腹膜ノ着面ハ菲
 薄ナル結締組織ニ由テ、底下ノ諸部ニ密附ヒリ、
 其數多ノ皺襞、即チ内翻部ハ、結締組織ノ交ヘ、以
 テ臟腑ノ位置ヲ維持シ、且ツ爰ニ関與スル所ノ
 血管、水脈、神經ヲ包容シ、或ハ屢多量ノ脂肪ヲ含
 蓄ス、
 腹膜ノ腹壁ヨリ翻出シ、且ツ諸器ニ轉涉セシヲ
 搜慕スルニ、之ヲ那ノ方、這ノ向ヨリスルモ、全然
 聯續シテ、絶ユル處ナシ、乃チ其摸式ハ、腹壁ノ前

部、兩側部ヨリ、上行シテ、横膈ヲ被覆シ、而テ肝
 三、翻轉シテ、三個ノ皺襞ヲ造成ス、之ヲ肝繫靱帶
 及ヒ、肝側靱帶（ゼ、ソ、ス、ペ、ン、リ、リ、ガ、及、ヒ、肝、側、靱、帶、ル、ラ、テ、ラ、
 再ヒ一個ノ皺襞ヲ造成シ、其臟、横披裂ヨリ、以
 テ胃ノ小灣ニ至ル、之ヲ胃肝網（ゼ、ガ、ス、ト、ロ、ヘ、パ、
 ム、ト云フ、而テ胃ヲ圍包シ、其大灣ヨリ降行シテ、
 廣キ四角形ノ皺襞ヲ造成ス、之ヲ大網（ゼ、ダ、イ、
 前方ニ垂張シ、而テ翻轉シテ、後層ト為リ、昇テ横

行結腸ヲ圍包ス、次、腹ノ後部ニ進行シテ、亦々
 皺襞ヲ造成ス、之ヲ横行結腸網膜（ゼ、ク、ラ、ン、ス、
 帯ノ後部ヲ造成シ、下層ハ、下行シテ、各側ニ往キ、

共ニ結腸ヲ圍包シテ、上行結腸網膜（ゼ、ア、セ、ン、
 及ヒ、下行結腸網膜（ゼ、デ、ヘ、ン、
 此兩網膜ノ中間、廣キ皺襞アリ、脊椎柱ヨリ、
 前方ニ翻出シテ、小腸ヲ被覆ス、之ヲ腸間膜（ゼ、
 テリト云フ、次ニ腸間膜ノ根底ヨリ、下行シテ、直
 腸ニ至リ、其腸ヲ尻骨盤ノ後部ニ連接セシメ、以

直腸網膜... 膀胱ニ至リ、而テ腹肚ノ前壁ニ上行シ終

エラ...

胃ノ後部ニ於テ、小腔ヲ造成シテ、大腔ト全然別

ソコ...

探スレハ、容易ニ大網ノ兩層間ニ達ス、又之ヲ驗

リガメンタム、ラテラ
リアヘハテス

リガメンタム、ラレ
ニコリーナール

丙
オリーメンタム、ミヌ

肝側靱帯 ヒ、ライイト、エンド、レフト、ラテラ 肝ノ

後縁ヲ、横膈ニ繋固ス其右者ハ、最短ニシテ、二層

ヨリ成リ、而テ其層、肝ノ右縁ヲ除ク他、相離

隔ス左者ハ、長フシテ、肝ノ左葉ヲ、緩ク提繫ス、

脾繫靱帯 ヒ、ソハ、ビソリ、リカ 横膈ヨリ

脾ノ上部ニ延展シ、肝ノ左側靱帯ニ隣接ス、

胃肝網 ヒ、ガスト、ロハ 薄キ皺襞ニシテ、肝

ノ横披裂ト、胃ノ小灣ノ間ニ展張ス左縁ハ、短ク

甲
オリーメンタム、ガス
トロリーナール

乙
オリーメンタム、マイシス

シテ、胃ノ上口ヲ圍包シ、右縁ハ、長フシテ、

ロ、氏孔ノ邊緣ヲ造為シ、且ツ総胆管、門脈、肝動

脈ヲ圍包ス、

胃脾網 ヒ、ガスト、ロ 胃ノ盲嚢ヨリ、脾門

ニ延展シテ、脾ノ血管ヲ含有ス、

大網 ヒ、グリト、オ 又タ胃結腸網 ヒ、ガスト、ロ

ハ、四角形ノ皺襞ニシテ、胃ノ大灣及ヒ横行結

腸ヨリ、下方ニ垂張シ、小腸ノ前方ヲ掩フテ、殆ト

尻骨盤ニ及ヘリ此網ハ、至薄ノ廣キ延展物ニシ

テ、其状、帷幕ノ如ク、而テ四層ヨリ成ル、然レ成

又ニ於テハ其層癒合シテ區別ス可ラサルニ至
 ル間脂肪ノ網狀線ニ由テ縱横ニ錯綜シ宛モ有
 孔ノ莫大小状ヲ呈ス其線ハ血管ノ行路ニシテ
 即チ胃大網動脈及ヒ靜脈ノ分支ナリ或ハ肥滿
 家ニ於テハ多量ノ脂肪ヲ含蓄ス屢疊颯シテ小
 腸ノ上方ニ在ルヲアリ

腸間膜

テセ、メ、セ、ン、テ、リ、イ、セ、ン

ハ巨大ノ皺襞ニシテ脊椎柱ノ

前方ヨリ小腸ニ

ニテ第二ノ腰椎ノ左側ヨリ斜ニ右腸骨部ニ延

布ス脊椎柱ヨリ畧ホ四「イ」チ「セ」ニ延展シテ其腸縁

メ、セ、ン、テ、リ、イ、セ、ン

メ、セ、ン、テ、リ、イ、セ、ン

ニ到ル此縁ハ己レカ被覆ヒル小腸ノ丈ケニ準
 同ス兩層間ニ蜂窩組織脂肪ノ他ト腸間膜血管
 其同行ノ神經叢乳糜脈及ヒ無數ノ水脈腺ヲ含
 有ス

結腸網膜

ハ結腸ヲ腹ノ後部ニ聯繫ス

蓋シ横上下ノ三行タリ即チ横行結腸網膜

ラ、セ、ン、タ

ソ「ウ」ル「ス」ハ廣キ皺襞ニシテ前方ニテハ横行

結腸ヲ被包シテ大網ノ後層ニ聯接シ後方ニテ

ハ臍十二指腸ノ部位ニ於テ分歧セリ上行結腸

網膜

ハ下行結腸網膜

フリーシセミルテレス

腸ノ後部ニ於テ、兩層共ニ、間隙ヲ遺サ、ルヲ得
 ス、故ニ其腸ハ、直チニ腹肚ノ後壁ニ密着ス、然レ
 此左腸骨窩ニ於テハ、廣濶ナルヲ以テ、結腸ヲ其
 下端即チS字状屈曲部ニ繫提ヒリ、
 直腸網膜ビ、ソ、ソ、レハ、下行結腸網膜ヨリ、
 直腸ノ者ニシテ、直腸ノ上部ヲ、薦骨ニ密附セリ、
 直腸膀胱皺襞カ、レ、ク、ト、ダ、シ、ハ、ニ、箇、ノ、皺、襞、ニ、シ
 テ、直腸ト膀胱ノ間ニ延展ス、而テ二箇ノ中間、自
 ラ一ノ腹膜囊ヲ造爲ス、之ヲ直腸膀胱囊セ、レ、ク、ト、ダ、シ

カ、ル、パ、ハ、云ヒ、亦タ直腸ト膀胱ノ間ニ在テ、其下
 方ハ、殆ト攝護腺ノ部位ニ達ス、此囊ハ、膀胱直腸
 共ニ空虚ナルルハ、隨テ空虚ナルカ故ニ、兩皺襞
 モ、亦タ緊張セス、乃チ相待テ、半月状線ヲ造爲シ、
 小腸ノ一部降テ、茲ニ來居ス、
 此囊ハ、婦人ニ於テハ、子宮及ヒ膣ノ存スルヲ以
 テ、前後ニ分レテ、兩部ト爲レリ、之ヲ直腸子宮囊
 テ、セ、レ、ク、ト、ダ、シ、ハ、ニ、箇、ノ、皺、襞、ニ、シ膀胱子宮囊セ、レ、ク、ト、ダ、シ
 甲ハ、深クシテ、下方即チ膣ノ上部ト、直腸トノ間
 ニ達シ、乙ハ、子宮ノ体ト、膀胱トノ間ニ達ス、故ニ

